
報告書 (体育研究所プロジェクト研究)

レスリング選手の性格特性
－ 2007年天皇杯全日本レスリング選手権大会兼北京オリンピック大会国内最終選考会
における試合前後の情緒変化と競技成績との関係・K大学生及び、K大学OBの場合－

A study of the correlation between changes of characteristic traits and
peak performance of wrestling players before and after the competition
－ The specific case of old player of K-university in the Emperor's &
Selective Competitions for Beijin Olympic Games in 2007 －

滝 山 將 剛*, 和 田 貴 広**

Yukitaka TAKIYAMA* and Takahiro WADA**

ABSTRACT

Using the same method (Y-G test) based on previous our reports, we investigated relationships between changes of characteristic traits in wrestlers of K-university just before the competition and the peak performance in the Emperor's & Selective Competitions for Beijin Olympic Games in 2007. With regard to the present results related to changes of individual characteristic traits of wrestlers just before (under the condition of with constraint) and after (without constraint) competition, we have confirmed again our previous findings: 1) the wrestlers who have positively changed characteristic traits before the competition have shown peek performance, 2) on the contrary, the wrestlers who have negatively changed them before the competition have not shown their best performance. However, we have found worthy of evidence in the present study. That is, some wrestlers who have changed their characteristic traits before the competition, could show their peek performance. Those wrestlers have much experience of competitions, i.e., called as a veteran wrestler. This evidence indicates that there is an important factor of peek performance not related to change characteristic traits. Although we can't concretely explain in detail, this factor might be obtained from experiences through many competitions and some wrestlers might accumulate those important factors for peek performance. This evidence is suggestive for making future training program.

* 国士舘大学体育学部 (Faculty of Physical Education Kokushikan University)

** 筑波大学大学院生 (体育研究科) (Undergraduate of Masters Program in Pelth and Physical Education, The University of Tsukuba)

I はじめに

選手の競技力向上に関わる要因は多種多様であるが、大まかに分類すると、身体的側面（体力、技能、技術など）に関わる要因と、心理的側面（情緒、気力、性格など）に関わる要因に分けることが可能であろう。レスリングのような格闘技においては、競技特有の「技」を習得することは極めて重要なことである。しかし、その技を駆使するのは選手であり、選手自身の心理的側面を疎かにすることはできない。我々が日頃よく経験するように、心理面（情緒的）の充実不足からせっかく身に付けた技を発揮できないという事態である。一般にいう「あがり」や「焦り」とう現象である。ことに厳しい戦いを強いられる格闘技においては、究極の場面において「技術力」以上に勝敗に大きく影響を及ぼすと考えられる「闘争心」という選手の内的な強さ、即ち、精神力の必要性を痛感する場面に遭遇することが多々ある。

筆者らは^{3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10)}、選手の競技力向上をはかる目的で、内的側面、ことに「精神力」を取り上げてきた。選手の内的側面（心理的側面）を科学的に解析することは、現状においてはそう簡単ではない。しかし、筆者らは、性格検査法として広く受け入れられ、信頼性の高さと定評のあるYG性格検査法¹¹⁾「以下YG検査という」を使用して、試合前に動揺しやすい選手の内面を把握することに努めてきた。即ち、YG性格検査を選手の心理面的変化が著しく起こると考えられる、選手にとって最も大切な試合（オリンピック大会、世界大会、各種国内大会）前後で実施し、同じ条件下での性格タイプの選手が、どのような情緒変化を来すのかを調べる方法である。今まで漠然と、しかも経験的に捕らえられていた選手の試合直前の情緒的变化が、実際の試合結果と大きな関わりを持つことが分かってきた。即ち、YG性格検査の性格類型と情緒尺度（D；抑うつ性、I；劣等感、N；神経質、O；客観性）に、それらが如実に反映されることが分かった。換言すれば

「心理的側面の変化を科学的に捕えることが出来るようになった」ということである。

今回は、これらの一連の研究の継続として、極端に短縮され一瞬の攻防に集中力が求められる、現行ルール of 試合時間（Free Style；2分・30秒休憩・2分、Greco Roman Style；1分スタンド・30秒グラウンド攻撃・30秒グラウンド防御）において、先の報告と同様な方法を用いて、平成19年度天皇杯全日本レスリング選手権大会に出場したK大学生及び、K大学OB選手の合計13名について、選手の情緒的側面の変化と競技成績との関係について調査、解析した。その結果を今まで筆者らが報告してきた結果と比較することによって、今後の競技力向上の施策の一助にすることを目的にした。

II 調査方法及び被験者

被験者は、各予選を通過して、平成19年12月21日～23日の3日間代々木第2体育館で開催された、天皇杯平成19年度全日本レスリング選手権大会兼北京オリンピック大会国内最終選考会出場のK大学生4名及び、K大学卒業生9名の合計13名を対象とした。

表1に、氏名、スタイル、階級、年齢、今回の成績及び、過去の成績を一覧にして示した。選手の情緒的变化についてはYG性格検査を3回実施した。1回目は普段の性格特性を把握する目的で全選手とも3週間前、2回目は試合日程がスタイル、階級、によって実施が異なるが減量の苦しみと試合への不安が最も高まると推測される軽量日前日の夜、12月19日にフリースタイル66kg級（1名）、120kg級（1名）・グレコローマンスタイル66kg級（1名）、12月20日にフリースタイル55kg級（2名）、グレコローマンスタイル74kg級（1名）、120kg級（2名）、12月21日にフリースタイル60kg級（2名）・グレコローマンスタイル60kg級（1名）・96kg級（2名）を実施し、3回目は試合後2週間後に実施した。YG性格検査の実施方法、その処理方法などは先の報告の通

表1 2007年度天皇杯全日本レスリング選手権大会出場の大

氏名	階級	年齢	今回の成績	過去の成績
T. A (体3)	F 55kg級	20歳	07年全日本選手権ベスト16	07年JOCジュニア優勝
T. S (O. B)	F 55kg級	29歳	07年全日本選手権ベスト16	07年全日本選抜選手権ベスト8
H. O (体1)	F 60kg級	19歳	07年全日本選手権ベスト16	07年内閣杯全日本大学選手権2位
S. O (O. B)	F 60kg級	27歳	07年全日本選手権2位	07年国民体育大会優勝
S. Y (O. B)	G 60kg級	31歳	07年全日本選手権ベスト16	07年全日本社会人選手権3位
K. K (O. B)	F 66kg級	28歳	07年全日本選手権ベスト8	04年全日本選手権優勝
Y. M (O. B)	G 66kg級	23歳	07年全日本選手権ベスト8	07年全日本社会人選手権3位
T. T (O. B)	G 74kg級	23歳	07年全日本選手権2位	07年全日本選抜選手権優勝
D. S (体2)	G 96kg級	20歳	07年全日本選手権ベスト16	07年東日本学生新人戦優勝
K. S (O. B)	G 96kg級	24歳	07年全日本選手権3位	07年全日本社会人選手権優勝
T. S (体4)	F120kg級	22歳	07年全日本選手権ベスト16	07年国民体育大会3位
H. S (O. B)	G120kg級	25歳	07年全日本選手権優勝	07年国民体育大会2位
M. N (O. B)	G120kg級	26歳	07年全日本選手権ベスト16	07年全日本社会人選手権2位

りである。

結果と考察

1. レスリング選手の性格特性について

表2に、平成19年度天皇杯、全日本レスリング選手権大会出場で今回対象とした13名の性格類型比率をまとめて示した。

YG性格プロフィールの類型に準じ、得られた対象者13名の試合前（普段）、試合直前（軽量日前夜）、試合後の3回の性格プロフィールから大きく4の類型に分類可能であった。その結果から、D 右下がり型（安定積極型）6名（46.1%）、次いでA平均型（平凡型）5名（38.5%）で、C左寄り型（安定消極型）1名（7.7%）と、E左下がり型（不安定消極型）1名（7.7%）が各1名であった。

これらの結果から、すでに報告されているスポーツマン的性格^{1) 2)}を示す、D右下がり型（安定積極型）の性格特性を示す選手が6名で、K大学及び、K大学OB選手においても一番多くみられた。その性格特性はその範疇に属していた。従来はD型を示す性格の選手はスポーツマン的性格と呼ばれ、競技者としては好ましい性格とされてきたものである。今まで競技者としては、どちらかと言えば異端視されてきたE型（不安定消極型）

表2 2007年度天皇杯全日本レスリング選手権大会兼、北京オリンピック大会国内最終選考会K大学及び、K大学OBの性格特性の人数とそのパーセンテージ大会出場選手の性格 F・Gの7階級

D一型（安定積極型）	6名（46.1%）
A一型（平凡型）	5名（38.5%）
C一型（安定消極型）	1名（7.7%）
E一型（不安定消極型）	1名（7.7%）

の選手が1名みられた。この傾向は、近年特に顕著で、筆者らがこの研究を始めてから20数年が経過したが国際大会で活躍している選手においてもこのE型に属する選手がみられたが、今回、E型を示した選手はK大学の新主将であり大学ではトップレベルの選手である。従来はD型を示す性格の選手はスポーツマン的性格と呼ばれ、競技者として最も好ましい性格であるとされてきた。しかし、生活環境、その他時代の変化に相応して、従来では考えられなかったような性格特性を有する選手が出現し、選手の心理的側面において質的な変化が確実に起こっていることを示しており、技術面での改変と平行して、常に考慮しておかなければならない選手の資質であることを示唆するものである。

2. 競技成績との関係について

1) D型について

前述のように、従来からスポーツマン的性格と

され、競技者として好ましいとされてきた典型的なD型を示した選手で3位内に入賞した選手3名の結果を普段（○印）、試合直前（△印）、試合後（●印）についてプロットして示した。このD型を示した選手は対象者13名中6名みられ競技成績は、優勝1名、2位1名、3位1名、2名2回戦進出、1名1回戦敗退の成績であった。図1はG120kg級優勝のH.S、図2はG74kg級2位のT.T、図3に今大会3位のS.O選手のものである。情緒尺度の変化についてみると、D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気が変わり易い）、I尺度（劣等感大）、N尺度（神経質）などの情緒不安定要素の尺度である項目が試合直前においてさしたる変化を示さず、むしろ試合直前に現象の傾向がみられた。この意味するところは、試合前の情緒の変化は少なく心理的動揺は少なく、平常心で試合に臨んでいるものと考えられる。これは3選手共に過去の国際大会等の経験の豊富さが生かされているものと推察される。

2) A型について

図4は、F60kg級O.H選手のものである。情緒尺度の変化についてみると、試合前の情緒の変化は少なく、試合という緊張の場面においては心理的には安定していたものと考えられる。しかし注目されることは試合後の調査において、D尺度（抑うつ性）が極端にマイナス面への変化がみられた。

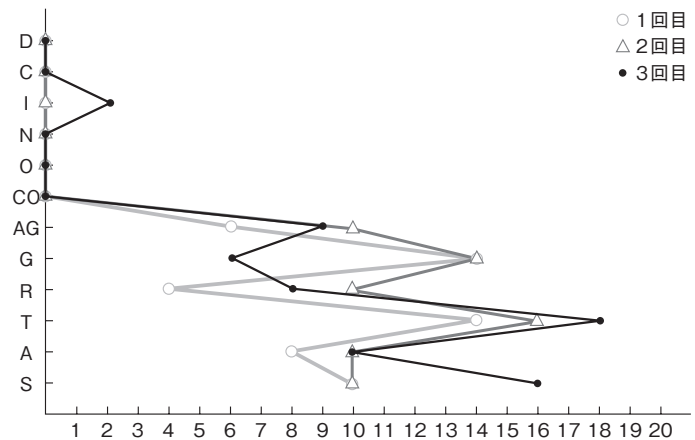


図1 情緒的变化からみたD型の選手（G120kg級優勝H.S）

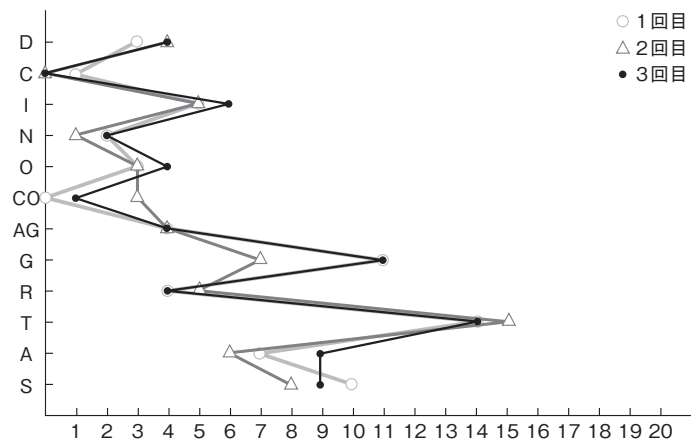


図2 情緒的变化からみたD型の選手（G74kg級2位T.T）

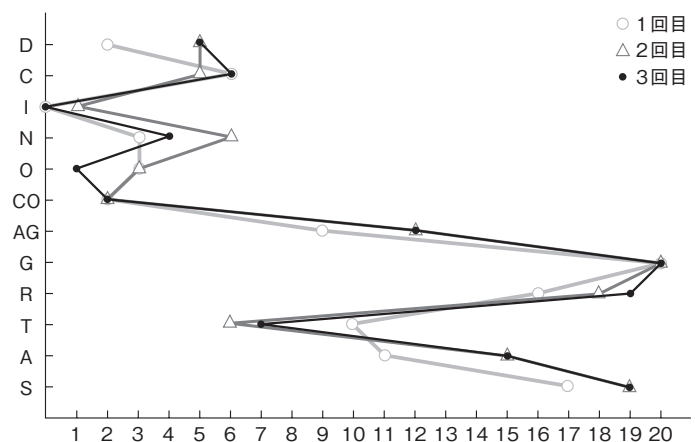


図3 情緒的变化からみたD型の選手（F60kg級3位S.O）

一般的には試合に臨む選手の精神的不安定傾向マイナス面への情緒変化として現れることが多いが、この場合はそれと全く逆の現象である。この意味することは不明であるが、選手の置かれた立場から推測すると、この選手は今大会で優勝した選手に、今年の学生の大大会で2回に渡り勝利していることと、大型新人として将来を嘱望されており今大会でも期待されていたが上位進出が出来なかったことから精神的な動揺があったものと推察される。

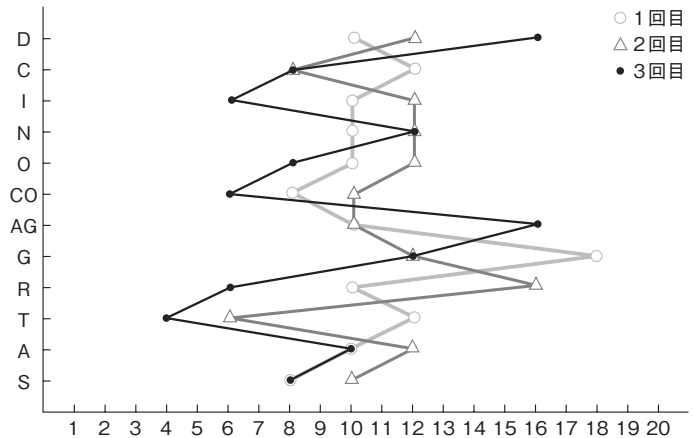


図4 情緒的变化からみたA型の選手 (F60kg級ベスト16 H.O.)

3) E型について

図5は、F55kg級T.A選手のものである。情緒尺度の変化についてみると、普段はE型であるが、試合直前において情緒不安定尺度が大きく変化しマイナス面が払拭されていることが注目される。中学時代に全国制覇、高校時代においても好成績を残し、大学においても優勝経験がある選手である。今大会では接戦で破れ上位進出は出来なかったが試合経験が豊富であることで試合直前でのマイナスに作用する精神面をコントロールし、試合に際しては闘争心を高めているものと推察される。

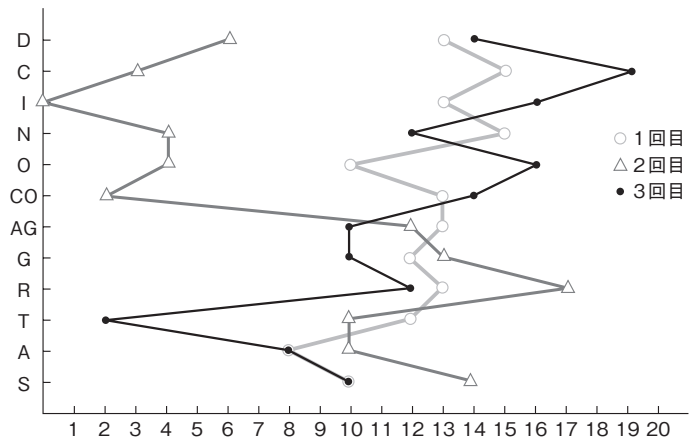


図5 情緒的变化からみたE型の選手 (F55kg級ベスト16 T.A.)

4) C型について

図6は、G66kg級Y.Mのものである。情緒尺度の変化についてみると、情緒不安定項目の尺度である、D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向)、I尺度(劣等感大)、N尺度(神経質)らが少し

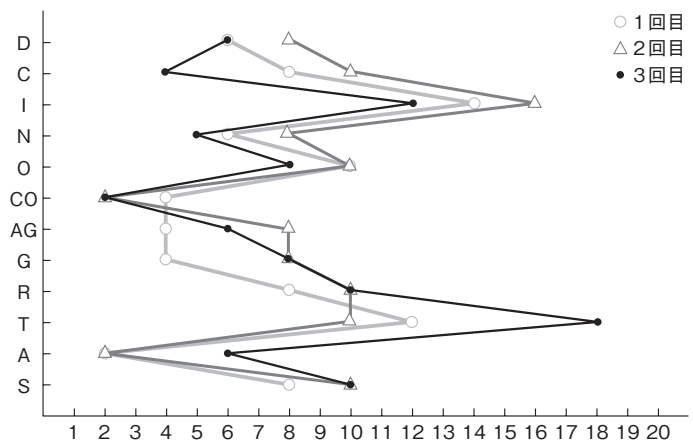


図6 情緒的变化からみたC型の選手 (G66kg級ベスト8 Y.M.)

であるがマイナス面への変化がみられる。これらは試合前の緊張感からくるものと推察されるが、この緊張感を適度の集中力を高める結果となりよい方向に作用したものと推察される。

ま と め

今回のYG性格検査の結果から、実際のレスリング選手の競技力向上に関する精神的側面について、最近の性格類型が大きく変化している事実は先の報告を支持するものであった。

また、情緒的側面がプラス面への変化を示した選手は好成績をおさめ、マイナス面に変化した選手の競技成績は、概して不振であった。このことについても、先の報告を支持するものであった。特筆されることは、情緒的側面がマイナス面に変化した選手の中で試合経験の豊富な、いわゆるベテランの選手では競技成績が良好な選手がみられた。

謝 辞

本研究は、体育学部附属体育研究所2007年度の研究助成によって実施した。

引用・参考文献

- 1) 朝倉利夫・他；レスリング選手の性格特性、－試合前後の情緒の変化とパフォーマンスの関係－、国士舘大学体育研究所報、第24巻、P.9-15, 2005,
- 2) 小林晃夫；スポーツマンの性格－性格からみた運動技能向上達－杏林書院、1986,
- 3) 花田啓一・他；スポーツマン性格、不昧堂、P.83-92、1968
- 4) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性（第5報）－第24回ソウルオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と成績との関係－国士舘大学体育研究所報、第7巻、P.13-19, 1988,
- 5) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性－試合前後の情緒変化と競技成績との関係－日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、NoⅡ競技力向上に関する研究、P.206-209, 1991,
- 6) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性－試合前後の情緒変化と競技成績との関係－日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、NoⅡ競技力向上に関する研究、P.277-279, 1992,
- 7) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性－試合前後の情緒変化と競技成績との関係－日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、NoⅡ競技力向上に関する研究、P.259-262, 1994,
- 8) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性－試合前後の情緒変化と競技成績との関係－日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、NoⅡ競技力研究に関する研究。P.291-294, 1995,
- 9) 滝山将剛；レスリングの性格特性（第8報）、－23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係－K大学の場合－、国士舘大学体育研究所報、第16巻、P.63-68, 1997,
- 10) 辻岡美延；YG性格検査手引き、日本心理テスト研究所、1978,